

避難所福祉調査票（202603 案）

避難所名			避難所がある市町	
評価年月日 時間	年 月 日 () AM / PM 時 分ごろ	避難所等の連絡先		
避難者等の人数	約 人 (月 日現在)	情報収集方法 (複数選択可)	☐ 責任者等からの聞き取り ☐ 支援者からの聞き取り ☐ 避難者からの聞き取り ☐ 現場の観察 ☐ 支援活動を通じて把握	
評価時に在所していた避難者数	およそ 人くらい			
記載者 氏名・所属	氏名 : 所属 : DWAT	記載者連絡先 (携帯電話等)		
評価項目				
A 要配慮者の状況	①要介護高齢者 ②認知機能低下 ③障害者 ④その他要配慮者 (およその人数)	重度：約 人 ・ 中等度：約 人 ・ 軽度：約 人 約 人 身体障害者：約 人 ・ 知的障害者：約 人 ・ 精神障害者：約 人 外国人：約 人 ・ 妊産婦：約 人 食事に関する配慮（アレルギー・食形態）：約 人		
	特記事項	※特に配慮や対応を要する状況の詳細等		
B 避難所環境	①建物の安全	避難所のダメージ、2 次被害の危険性 無 / 有		
	②通路・動線の安全	問題点 無 / 有		
	③要配慮者用の 部屋・スペース	個室・別室 区画・スペース	A：活用中、B：設置場所はあるが未活用、C：設置場所なし、D：不明 A：活用中、B：設置場所はあるが未活用、C：設置場所なし、D：不明	
	特記事項			
C 要配慮者に対する支援の状況	①福祉支援の ニーズ把握	要配慮者の把握状況（誰がいるか） 個別の福祉的ニーズ把握実施の有無 福祉避難所等に移送すべき人の判断 要配慮者名簿の作成 要配慮者マッピングの作成	A：完了、B：実施中、C：できていない、D：不明、E：不要 A：完了、B：実施中、C：できていない、D：不明、E：不要 A：完了、B：実施中、C：できていない、D：不明、E：不要 A：完了、B：実施中、C：できていない、D：不明、E：不要 A：完了、B：実施中、C：できていない、D：不明、E：不要	
	特記事項	※ニーズ把握状況の詳細（だれがどのように実施したか）等		
	②福祉的支援の実施状況 (高齢者)	個別支援 集団支援 環境整備	A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要 A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要 A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要	
	③福祉的支援の実施状況 (障害者)	個別支援 集団支援 環境整備	A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要 A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要 A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要	
	④福祉的支援の実施状況 (子ども)	個別支援 集団支援 環境整備	A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要 A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要 A：充足、B：まあまあ充足、C：やや不十分、D：不十分、E：不明、F：不要	
	特記事項	※福祉的支援の実施状況・不足している支援の詳細等		
D 支援チームの活動状況	①保健医療福祉専門職 の支援者配置状況	保健師 DMAT・JMAT 等の医療チーム DPAT（精神保健） JRAT（リハビリ） JDA-DAT（栄養士） DWAT	A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明 A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明 A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明 A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明 A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明 A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明	
	②NPO・ボランティア等の 活動状況	A：常駐、B：定期巡回、C：不定期巡回、D：なし、E：不明 種類・頻度：		
	特記事項			
E	DWAT の必要性	A：常駐 、 B：毎日巡回 、 C：数日おき巡回 、 D：必要なし		
F	DWAT の必要性の根拠・対応すべき課題			

評価項目の記載方法

A 要配慮者の状況

- 人数は正確である必要はない
- 聞き取りや目視による大まかな把握でよい
- 不明な場合は、「把握できていない」「数名」「複数」「多数」といった表現や特記事項への記載でも可とする

B 避難所環境

- 聞き取りや目視で分かる範囲で記載する

C 要配慮者に対する支援の状況

①福祉支援のニーズ把握

- 避難所運営者、他の保健医療福祉専門職、行政職員、DWAT の誰が実施したかは問わない
- 「要配慮者の把握状況」：避難所内にどのような要配慮者がいるかが把握されているかを評価
- 「個別の福祉的ニーズ把握実施の有無」：要配慮者が、「何に困っているのか」「どのような支援が必要か」まで把握されているかを評価する。「被災者アセスメント票」や保健師のトリアージ等把握の方法は問わない。特記事項に実施方法を記載すること。ニーズ把握は繰り返し実施するものであるが、ここでは **1 回目の実施の有無を記載**する。

②～④福祉的支援の実施状況（高齢・障害・子ども）

- **個別支援**：特定の避難者一人ひとりの状況に応じて行われる支援
具体例：生活上の困りごとの聞き取り、相談対応、身体状況や生活機能を踏まえた環境調整、介助・見守り・声かけ、行政や医療・福祉サービスにつなぐための調整、家族・支援者との連絡調整など
- **集団支援**：避難所内の一定の集団や、避難者全体を対象として行われる支援
具体例：集まれる場・交流の場の設定、体操・レクリエーション・活動プログラム、情報提供、注意喚起、生活ルールの共有、心身の不調予防を目的とした取り組みなど
- 支援の実施主体は、DWAT に限らない。（避難所運営者、保健師、NPO、ボランティア等を含む）
- DWAT が直接支援していなくても、機能していれば「実施されている」と評価してよい
- **判定の考え方**
 - A：充足** 把握されているニーズに対して概ね対応できている。新たな支援がなくても、当面は大きな支障が生じない。
 - B：まあまあ充足** 支援は行われているが、一部に抜けや偏りがある。現場の工夫で持ちこたえている状態。
 - C：やや不十分** 支援はあるものの、明らかに不足している部分がある。今後、支障が生じる可能性がある。
 - D：不十分** 必要な支援が、ほとんど、または全く行われていない。二次被害につながるリスクが高い
 - E：不明** 情報が不足しており、現時点では判断できない
 - F：不要** 現時点では、当該支援を必要とする対象者がいない（避難所に子どもがいない等）

E DWAT の必要性

- 上記の評価および課題整理を踏まえ、**現時点での総合判断**を行う
- 状況の変化により、判断が変更されることを前提とする

F DWAT の必要性の根拠・対応すべき課題

- DWAT 派遣判断の**根拠となる課題や懸念点**を記載する。箇条書き・断片的な記載でよい。